

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I	特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。 地域交流や地域貢献を目的とした活動や行事等に参加した生徒の80%以上が満足している。	生徒が主体的に参加ができるよう指導するとともに、専門学習の充実に関わり付ける指導を行う。	A	A	A	質問1で地域交流や地域貢献活動を目的とした活動に取り組んでいる生徒が71%、保護者が87%、取り組んでいないと答えた生徒が29%いました。質問2で地域交流や地域貢献活動に満足している生徒が80%、満足していない生徒が13%となり、地域交流や地域貢献活動に積極的に取り組み満足している生徒が増えている。今後も地域交流や地域貢献活動である旨の説明を実施しながら教育活動を継続していく必要がある。	地域との連携を重要視した取り組みに感謝している。今後も多方面にわたって活発に取り組んでいただきたい。 地域の行事やイベントへの参加も活発化してきたので、特徴や活躍をプレゼンできる力を高めていって欲しい。
II	生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 ① 授業がわかりやすいと75%以上の生徒が答えている。 ② 資格取得にむけた指導に生徒の70%以上が満足している。	指導と評価の一体化につなげられるよう目標と振り返りを明確化し、ICT利活用を中心とした適切なツールを取り入れた指導方法や教材の工夫等、授業改善に努める。 専門的学習における資格取得の位置づけを理解し、進路実現にむけた重要性をふまえて取り組めるよう、指導体制を構築し、家庭と連携した指導に取り組む。	A	A	A	授業者としてわかりやすい授業を心がけて実践することで、生徒や保護者にとっても満足度の高い結果となった。ICTを適切に利活用する授業を新教育課程を踏まえて、展開できるようにしていきたい。特に専門的な学習を進展させる際に、生徒の端末や各種ソフトの利用スキルを高めていきたい。 資格取得に対して生徒及び保護者の期待は大きい。現在取り組んでいる資格については、アンケートの数値は目標値を上回り、意見要望においても、満足度は高いものであった。受験可能な検定を増やし、よりよい結果へ結びつけるために、大会等への参加も含めて目標に十分な準備期間を取っていきたい。そのためには、早期の計画や予定周知が課題となっている。	タブレットの使用については、小、中学校との情報交換を活発にして、より質の高い学びにつなげていって欲しい。 農業高校にとって、資格取得は大きな学びの一つになる。小型特殊自動車免許など、さらなる農業の特色を活かした資格取得にも挑戦し、幅を広げて欲しい。資格に向かう姿を見ると成長と自信につながっていると感じるので、補習など先生方にとって大変なご苦労も感じるが、今後も指導の充実をお願いしたい。
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。 授業を中心とした学習に対して意欲的に取り組んでいると自己評価している生徒が、70%以上である。	振り返りから自己課題を確認できるよう、目標や評価についての解説に重点をおき、主体的に学習に取り組めるよう、指導体制の充実を図る。	C	A	A	教職員側として学習に対して前向きと感じる生徒が58%という結果であった。生徒自身は意欲的に取り組んでいると79%が回答しており、差がみられた。教職員の考える意欲的な取り組み目標を達することができるよう、主体的な学習への取り組みに対する指導の工夫が課題と感じる。	
	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。 ① 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に複数回実施している。 ② 学校生活全般における身だしなみの改善・挨拶指導が十分に行われていると評価する生徒が70%以上である。	職員会議・学年会議等の議題として情報交換を実施し、全教職員間で情報を共有し、組織的な指導を行う。 職員間で連携をとり、HR・授業中における指導を充実させる。登校時指導や授業、HR等で身だしなみ・挨拶指導を継続的に行う。	A	-	A	生徒の情報交換については月1回以上の職員会議での生徒状況報告、朝会や各学年文書での会議において情報共有が行われている。必要な生徒情報を得られていると回答する職員が85%となっているので維持継続したい。 学校生活全般における身だしなみの改善については職員の指導意識と保護者からの意見からはそれぞれ88%、96%と高い数値で評価が出ている。しかし、生徒の評価を見ると81%は十分行われているとされており目標は達成しているが、十分でないと答えるものが5%あり、もう少し手を入れるべき点があると感じられる。また、一部の意見からは校外での化粧や服装の派手さについてご指摘があるので注意指導を継続していきたい。		
III	生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。 いじめの未然防止に努め、早期発見・早期対応に努めていると評価する生徒が80%以上である。	生徒及び保護者はいじめ防止対策について情報発信する。生徒観察に努め、未然防止・早期の組織的対応を徹底する。いじめ認知内容についてはすみやかに職員間で共有する。	B	C	C	いじめの未然防止、早期発見・早期対応については職員と保護者の感想では94%、91%と高く評価されているが、実際の生徒は67%がはいと答えるに留まっており、いいえという回答も5%あるのが大変な注意が必要だと感じている。	ヘルメットの着用など、指導に苦勞しているように感じる。学校周辺においては、着用率は上がっているように感じるが、離れたところにおいては、難しい面もある。学校だけでは限界もあり、家庭での声かけや教育が重要なのではないかと感じる。
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。 ① 遅刻率が0.8%以下である。 ② 欠席率が1.5%以下である。	HRや授業の開始時間を守るよう指導し、時間を守ることの大切さを伝え続ける。保護者と連絡を取り合い、連携して指導する。 本人・保護者との連絡を密にし、必要に応じて面談や家庭訪問を実施する。また、進路を踏まえ欠席数を増やさないことの重要性を理解させる。長期欠席者に対しては、スクールカウンセラー等とも連携し生徒理解と原因把握に努める。	C	-	C	12月末までの遅刻率は全体で1.1%であり、学年によっては目標の0.8%に収まっている学年もある。遅刻については昨年度より減少傾向が見られるので、継続して目標達成を意識して指導していきたい。欠席率については全体で2.9%と昨年同時期より高く、出席率の見直しなども影響していると思うが高水準であるので、体調管理を含めた日常指導を怠らずに改善を目標とする。ただ、保護者生徒共に遅刻や欠席をしないよう意識しているという回答は90%程度となっているので、特に意識の低い生徒について注視していきたい。また、悩み改善・解消に向けたスクールカウンセラーとの連携を進めており、利用率は高い状況にある。	いじめについては注視している。難しい問題ではあるが、深刻な事態になる前での対応をお願いしていきたい。 いじめはSNSの影響が大きい。直接のやりとりにおける問題は生徒の成長につながるように感じるが、スマホ上のトラブルは難しい。使用方法など、学校だけでなく家庭の役割や責任を示していくことも必要に感じる。
	7 計画的な指導を行っていますか。 学校から提供される進路情報や進路関係行事等が進路を考える上で役に立っていると評価する生徒が80%以上である。	ポートフォリオ・手帳等を使って進路行事の事前・事後指導を行い、進路学習の充実を図る。また、進路相談会やオープンキャンパスなどの情報提供を充実させ、生徒の参加を促進する。	A	A	A	生徒が進路を考えるきっかけとなるのが、進路ガイダンスや進路相談会などへの参加による進路情報の獲得であり、今年度はそうした進路行事への積極的な参加が各学年で見受けられ、概ね目標は達成された(アンケート評価:保護者85%・生徒83%)。今後も進路行事への積極的な参加を継続して促していきたい。	地元で活躍する卒業生を見て、本当に嬉しく感じている。農業系への進路が少ないことは残念ではあるが、農業の魅力をより発信していただき、地域の活性化につなげて欲しい。進学においても農業系への進路に今後も期待したい。	
IV	生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。 ① 自己の生き方と将来の職業について考えている生徒が75%以上である。 ② 目標とした進路を実現できた生徒(3年生)が90%以上である。	① 学習活動・特別活動・学校行事等を通して、全教職員間で生徒に自己の生き方と将来の職業について考えさせる指導を行う。 ② 3年生の進路に関する情報を全教職員間で共有し、学校全体で3年生に対する個別的なキャリアカウンセリングを進める。	A	C	B	「自分の生き方や将来の職業」について考えていない生徒も一定数おり(アンケート評価:保護者72%・生徒74%)、生徒と保護者の間の情報共有も含めて、さらにキャリア教育の充実を図る必要がある。 3年生の進路実現では、生徒と保護者の間で大きな開きが見られる(アンケート評価:保護者93%・生徒81%)。就職・進学試験での不合格、進学から就職への変更、未定となった経緯も含めて、生徒が第一志望としていた進路先が変更されたことなどにより、生徒の評価が低くなったと考えられる。生徒が第一志望への合格ができるように今後もキャリアカウンセリングや就職・進学対策を充実させていきたい。	農業の分野は広く、各コースで様々なことを学んでいる。それらをどういった形でよいので活かし、進路につなげて欲しい。先生方の苦勞もあると思うが、家庭とも連携し、よりよい進路実現へ生徒を支えて欲しい。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。 ① 自己の生き方と将来の職業について考えている生徒が75%以上である。 ② 目標とした進路を実現できた生徒(3年生)が90%以上である。	WEBページや連絡メール、クラスルーム等を利活用し、学校の様子をわかりやすく保護者及び地域に発信できるように工夫や充実を図る。	A	B	A	学校の様子がよくわかると評価する保護者が78%で、数値目標は達成した。昨年秋からInstagramやX(旧ツイッター)を始め、アップの速度を速める工夫も行ってきた。今後は、保護者や外部への認知度を高め、WEBページとともにソフトの特徴をふまえた更新を行い、より学校の様子がよくわかるような情報発信となるよう、工夫したい。	新聞記事のweb発信ができるとありがたい。新聞に掲載があると地域の方はよく見ている。デジタル化もいいが、紙の良さもあるので、両方の良さをふまえて発信できるとよい。
V	開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。 「学校の様子がよくわかる」と評価する保護者が75%以上である。	ICT機器及びソフトウェアを効果的に利活用し、デジタルコンテンツを使った成果を実感できるような教育活動の工夫や充実を図る。	D	A	B	職員としての満足度が低い一方、保護者や生徒は授業やHRにおけるICTの活用による一定の評価があった。授業におけるICT活用のスキルが不足しているのか、教材研究の時間が不足しているのか、教職員の考える教育のデジタル化のスタイルを分析し、課題を明確化したい。授業においては、教科によって活用しやすいコンテンツは異なってくるので、授業研究などを強化していきたい。 業務改善においては、学習および校務支援システムの導入と定着もあり、一定の成果があったと考えたが、半数の評価にとどまった。デジタル化=業務改善ではなく、効率化できるところの見極めと多忙感の根源をつかめるよう、声を聴いていきたい。	農業には、デジタル化できない部分も多くあると考えるので、ここまでの活躍を見てくると、教職員の多くの努力を感じる。職員が健康であるからこそその学校なので、留意して欲しい。
VI	教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。 ICTを活用した授業およびHR活動に生徒の70%以上が満足している。	学習および校務支援システム、Googleネットワークサービス等を適切に活用し、最新の情報を確認できる体制を整え、業務の効率化を図る。	D	-	D		
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。 職員連絡および会議資料等のデジタル化を80%以上実施する。						